

乾

章俊議員



- 「稼ぐ力を磨く支援」について
- 勝山水菜について
- 恐竜文化賞について

### 一般質問

**問** 若者の雇用創出に全力を挙げることが、人口減少・流出を少しでも食い止めることになる。幸い恐竜博物館の来訪者増が見込まれる中、いかに当市でお金を落とすしていただくかの工夫・研究が喫緊の課題。

**答** 対策の一環としてお土産品の「メイドイン勝山」の商品開発が重要となる。実際に商売をされる方々が稼ぐ力を磨く新しいものがづくりへの強い行政支援が求められる。考えを聞く。

**問** 平成29年、30年度の2カ年でお土産物開発に特化した補助事業の創設を検討している。既存の二つの補助事業の内容を包括することで、6次産業化を含めた土産物開発と魅力ある商品開発を支援していく。

**問** 当市のブランド品である「勝山水菜」を新たに商品開発すべき。例えば、生産者の高齢化対策となる機械の導入、サイバス・ビジネスを可能にするIoTの活用、年間を通して販売できる製品化を目指すために、最新の冷凍技術を駆使したレトルト製品や建物内での

**答** 水耕栽培の研究・開発が考えられる。後継者育成のためにも付加価値を高め、高額で取引され、収入が増える方策をしたいもの。どうか。

**問** 適地適産の原則を踏まえた原種の確保とブランド化の推進を図るとともに、生産者の意向を聞きながら機械やIT活用による作業の省力化・効率化に併せて、販路の拡大など、生産者の所得向上等につなげていきたいと考える。

**問** 当市として、恐竜に関わる題材を切り口に幅広く文化の醸成をしていくことが、他に追従を許さない恐竜王国勝山のイメージアップにつながる。以前事業展開していた恐竜文化賞は現在どのような状態か。是非市民のみなさんで新しい時代に合った楽しく面白い魅力ある賞に創作していただきたいもの。今後の展開を問う。

**答** 現在、このような大がかりな事業を実施することは難しいが、市民レベルで恐竜文化が広がるよう取り組んでいきたい。

下牧 一郎議員



- 手話言語条例の制定について

### 一般質問

そのほかの質問  
・熊本地震の教訓から学ぶべきことについて

**問** 11月3日に開催された「手話の普及促進・啓発を考えるフォーラムinふくい」に参加し、手話ができる者にとつていかに文化であり言語であるかを改めて認識した。

**答** 手話言語の普及並びに障害者の情報の利用及びコミュニケーションの促進により、障害の有無によつて分け隔てられることがない共生社会の実現を目指す事を目的とした、例えば、「手話は言語及び障害者のコミュニケーション手段を促進する」という趣旨の条例案の作成を検討するために、有識者、当事者代表、手話通訳者、福井県立ろう学校、理事者（市長、健康福祉部課長）などが参加して検討委員会を設置してはどうか。理事者の考えを問う。

**問** 日頃より手話の必要性を深く認識しており、今年6月に設立された「全国手話言語語市区長会」では、設立趣旨に賛同し、県内ではいち早く会員となった。

**答** 勝山市では、昭和50年から継続的に手話講習会を開催し、現在13名の手話奉仕員、5名の手話通訳者が登録され、また、



議場での手話通訳の様子  
(平成26年3月議会)

福祉・児童課にも手話のできる職員を配置しており、手話が必要とする方の情報支援に当たっている。

**問** また、福祉教育の一環として手話に触れる授業が行われている小学校、中学校、高校へも、手話講師の派遣を行っている。市独自の事業としては、手話通訳者になるための講習会受講料を助成するなど、平成30年に開催される国体及び障害者スポーツ大会に向けて、人材育成に努めている。

**答** 「検討委員会の設置」については、今後とも手話通訳者や奉仕員の増員など環境整備を図るとともに、条例制定に向けては、課内での協議を続け、県内の各自治体の取り組み状況を勘案した上で、対応させていただきたい。